

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-109	中学校	外国語	英語	第1学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
9 開隆堂	英語 702	SUNSHINE ENGLISH COURSE I		

## 1. 編修の基本方針

教育基本法、学校教育法を精神を教材の中で具体化するとともに、学習指導要領に示された目標と内容に沿って、外国語を使って豊かなコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を養うことを目指し、以下の基本方針を設定しました。

### 自ら考え、行動し、目標に向かって主体的に学習が進められる教科書

小学校での外国語（英語）の基礎の上に立って、いっそうコミュニケーション能力を伸ばすために、「話すこと」を軸にして4技能5領域の能力を総合的に扱い、統合的に活用して思考力、判断力、表現力を育成する構成です。また、我が国と諸外国の伝統や文化を尊重する態度を育成します。

1

### 生きたコミュニケーション能力が身につき、自己肯定感を育みます。

- 身の回りの場面から社会的な場面まで、自分のことばとして英語を使う力がつきます。
- 「何のために」「だれに向けて」を意識したコミュニケーション活動が実現できます。
- 即興でコミュニケーションできる能力を育みます。



●主人公  
古瀬 真央

2

### 確かな学力が身につきます。

- 学習事項について、生徒に気づきを促し、自律的学習者を育てます。
- 3年間を見通した学習を可能にしています。
- 知識・技能を習得し、それを活用して課題を解決する力が身につきます。

3

### 「地球市民」としての豊かな感性を育みます。

- 日常生活だけでなく、環境、平和、人権、共生などの現代的課題を扱い、多様なものの見方や考え方について、生徒に思考力・判断力を促す題材を精選しました。
- 自国の伝統と文化を尊重するとともに、他国も尊重し、国際社会に寄与する意識を育てる題材を配置しています。

# 1

## 生きたコミュニケーション能力が身につき、自己肯定感を育みます。

### 1. 身の回りの場面から社会的な場面まで、自分のことばとして英語を使う力がつきます。

本教科書では、各学年に3か所（※3年生のみ2か所）に、統合的なパフォーマンス活動を行う Our Project を設けています。場面と内容は発達段階に応じて徐々に難易度を上げ、最終的には社会的な場面で自分のことばとして英語を使う力を育てます。

	身の回りの場面		社会的な場面
Our Project 一覧	1年生	2年生	3年生
	<b>① 自己紹介</b> (あなたの知らない私) <b>② 他者紹介</b> (この人を知っていますか) <b>③ Show &amp; Tell</b> (私が選んだ1枚)	<b>④ グループプレゼンテーション</b> (「夢の旅行」を企画しよう) <b>⑤ ポスター発表</b> (こんな人になりたい) <b>⑥ 自己PR</b> (この1年で得た「宝もの」)	<b>⑦ 記者会見</b> (記者会見を開こう) <b>⑧ 外国の人に地元のものをPR</b> (あなたの町を世界にPRしよう)



### 2. 「何のために」「だれに向けて」を意識したコミュニケーション活動が実現できます。

活動には場面性をもたせ、ペアやグループで行う活動を数多く設定することで、目的と相手を意識したコミュニケーション活動が行えるように配慮しています。

**3** 次の①～③の状況のとき、メニューを見ながら店員役と客役に分かれてペアで話しましょう。

- ① 3ドル 50セントしかない。店内で食べる。
- ② 10ドルある。店内で何を食べてもよい。
- ③ 12ドルある。友だちの家におみやげとして買って行き、2人で食べる。

(p.52 「ハンバーガーショップへ行こう」)

### 3. 即興でコミュニケーションできる能力を育みます。

通常課 (PROGRAM) には、即興でのコミュニケーション活動を行う Try のコーナーを2か所ずつ設けました。これを積み上げていくことで、Our Project において書いた原稿を読み上げるのではなく、メモをもとに発表したりの、友だちの発表に対して即興で質問やコメントなどの「やりとり」をする力が身につきます。



① 友だちにできることを聞いてみよう。



② 巻末資料②の A からトピックを1つ選んで話そう。

(p.55, 57)

**A**

- |                                      |                                      |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1. 好きな食べ物   | <input type="checkbox"/> 2. 好きな季節    |
| <input type="checkbox"/> 3. 好きな音楽    | <input type="checkbox"/> 4. 好きな動物    |
| <input type="checkbox"/> 5. 好きなゲーム   | <input type="checkbox"/> 6. 部活動      |
| <input type="checkbox"/> 7. 趣味・特技    | <input type="checkbox"/> 8. 行ってみたい場所 |
| <input type="checkbox"/> 9. おもしろい友だち | <input type="checkbox"/> 10. あこがれの人  |

(後見返し)

## 2

## 確かな学力が身につきます。

### 1. 学習事項について、生徒に気づきを促し、自律的学習者を育てます。

新出表現の導入は2コマのマンガ形式で示すことにより、文字が読めなくても、イラストや音声を頼りに内容を推測できるように配慮しました。また、基本的には文法シラバスで構成されていますが、Tryのコーナー（p.2参照）には小学校英語で学んだ表現をどんどん使う機会を設け、スパイラルな学習ができるように配慮しました。

1 過去の状態などについて言えるようになる。QR

Look. I **was** a student at this time.

Oh, my. You **were** very cute.

You "were"?

Sorry. You are still cute now.

(p.114 PROGRAM 10)

### 2. 3年間を見通した学習を可能にしています。

4技能5領域別にまとめた「できるようになったことリスト」を巻末に掲載し、自分が身につけたことの軌跡がわかるように、年間4回チェックできる欄を設けました。また、教科書との関連箇所も示しているため、定着が弱いと感じたものについても復習しやすくなっています。

Listen 聞くこと

できるようになったこと	おもな関連箇所			4月	9月	12月	3月
	1年	2年	3年	日	日	日	日
1 アルファベットを聞いて、どの文字かわかる。	GR						
2 日常生活で身近な単語を聞いて、その意味を理解できる。	GR WW	WW	WW				

(p.156 できるようになったことリストの「聞くこと」の一例)

### 3. 知識・技能を習得し、それを活用して課題を解決する力が身につきます。

基礎・基本のうえに、実際のコミュニケーションをする能力をつけます。本教科書の Our Project をはじめ、Power-Up、通常課の Interact のコーナーでは、「伝え合う能力」、「話し合える能力」、「発表・討論・交渉などを行う能力」を段階的に身につけられるような活動を数多く設定しています。

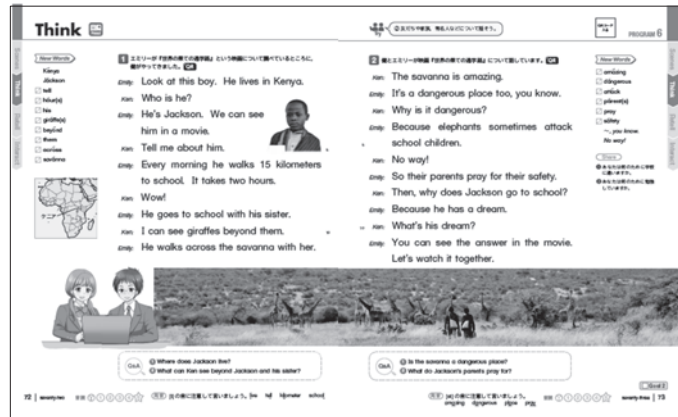
# 3

## 「地球市民」としての豊かな感性を育みます。

1. 日常生活だけでなく、環境、平和、人権、共生などの現代的課題を扱い、多様なものの見方や考え方について、生徒に思考力・判断力を促す題材を精選しました。



(p.69, 72-73)

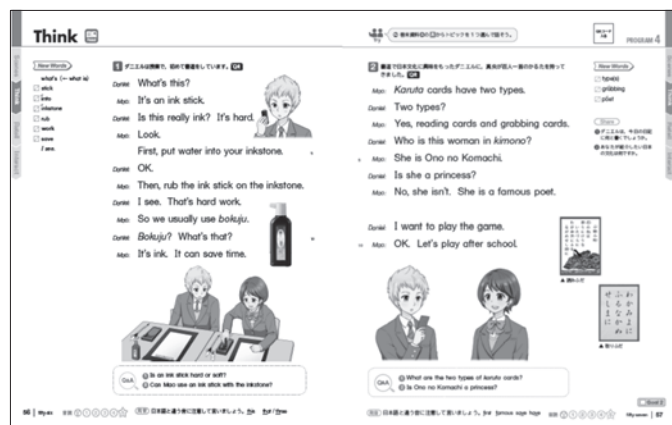


映画『世界の果ての通学路』を取り上げました。野生動物に襲われる危険もある中で、片道15kmのサバンナを妹と毎日通学するケニアの少年ジャクソン。学校に通う意味について考えさせます。

2. 自国の伝統と文化を尊重するとともに、他国も尊重し、国際社会に寄与する意識を育てる題材を配置しています。



(p.53, 56-57)



日本文化である書道とかるたを取り上げています。ほかにも、年末の大掃除やおせち料理なども取り上げました。英語で自国の文化を発信するモデルになります。

☞ その他の題材については、p.5 参照

## 2. 対照表

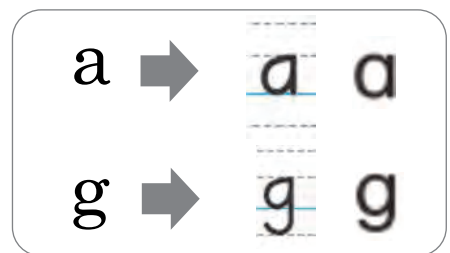
※ Prog…PROGRAM OP…Our Project

図書構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所
Get Ready	中学校英語をはじめよう	小学校で学習したことを復習しながら友だちとやりとりすることで、幅広い知識と教養を身につける態度を養います（第1号）。	pp.7-15
Prog. 1	友だちを作ろう	自己紹介の場面を通して、自他の敬愛の精神を培い、主体的に社会の形成に参画する態度を養います（第3号）。	pp.21-27
Prog. 2	1-Bの生徒たち	英語の基本的なやりとりを学ぶことで、積極的に友だちと関わり合おうとする、豊かな情操と道徳心を身につけます（第1号）。	pp.29-35
Prog. 3	タレントショーを開こう	タレントショーを通じて友だちが得意なことを発見することで、自他を敬愛する精神を養います（第3号）。	pp.39-45
OP 1	あなたの知らない私	友だちが知らない自分のことを紹介することで、個人の価値を尊重する精神を養います（第2号）。	pp.47-51
Prog. 4	Let's Enjoy Japanese Culture.	日本文化について英語を通して知ることにより、伝統と文化を尊重し、わが国と強度を愛する精神を養います（第5号）	pp.53-59
Prog. 5	Junior Safety Patrol	アメリカには生徒が交通の見守りをする役割があることを学ぶことで、主体的に社会に参画する態度を養います（第3号）。	pp.61-67
Prog. 6	The Way to School	ケニアで困難を克服しながら通学する少年について学び、自主的及び自律的に学習に向かおうとする意欲を養います（第2号）。	pp.69-75
Prog. 7	Research on Australia	南半球にあるオーストラリアの自然や文化を学ぶことで、他国を尊重し、自然を大切にすることを意識を養います（第4、5号）。	pp.79-85
OP 2	この人を知っていますか	他者紹介をし、友だちの発表を聞くことで、新たな知識を得て幅広い知識と教養を身につけることができます（第1号）。	pp.89-93
Prog. 8	The Year-End Events	日本の年末の伝統を、英語を通して知ることにより、わが国の伝統と文化を尊重する態度を養います（第5号）。	pp.95-101
Prog. 9	A Trip to Finland	フィンランドの文化、自然を学ぶことで、国際人としての自覚をもち、他国を重んじて自然を保護する意識を高めます（第4、5号）。	pp.103-111
Prog. 10	Grandma Baba's Warming Ideas!	日本の物語『ばばあちゃん』を味わい、紙芝居で演じることで、豊かな情操と道徳心を培います（第1号）。	pp.113-123
OP 3	私が選んだ1枚	自分が選んだ写真や絵を英語で紹介することで、個人の価値を尊重し、創造性を培います（第2号）。	pp.125-129

## 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

### 1. すべての生徒が学習しやすい紙面づくり

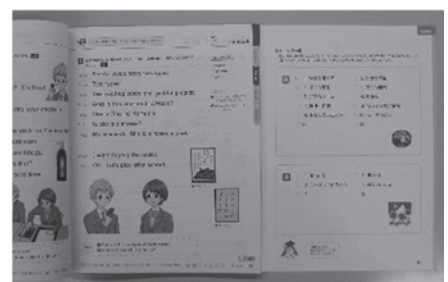
カラーユニバーサルデザイン、特別支援の観点でも十分な配慮をしました。識別しづらい色遣いは避ける、文字を極力大きくする、手書き文字に近いフォントを2種類開発するなど、すべての生徒が無理なく学びやすい紙面づくりを目指しました。



### 2. 造本・体裁など

造本は丁寧に堅牢です。また、環境に配慮した用紙やインキを使用しています。

巻末資料の「Tryのまとめ」のトピック一覧は、いつでも参照できるように折り込み式の体裁とし（右記参照）、活動に使う「アクションカード」は切り取り用のミシン目を施しました。



# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
31-109	中学校	外国語	英語	第1学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
9 開隆堂	英語 702	SUNSHINE ENGLISH COURSE I		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

習得した**知識・技能**を活用して、

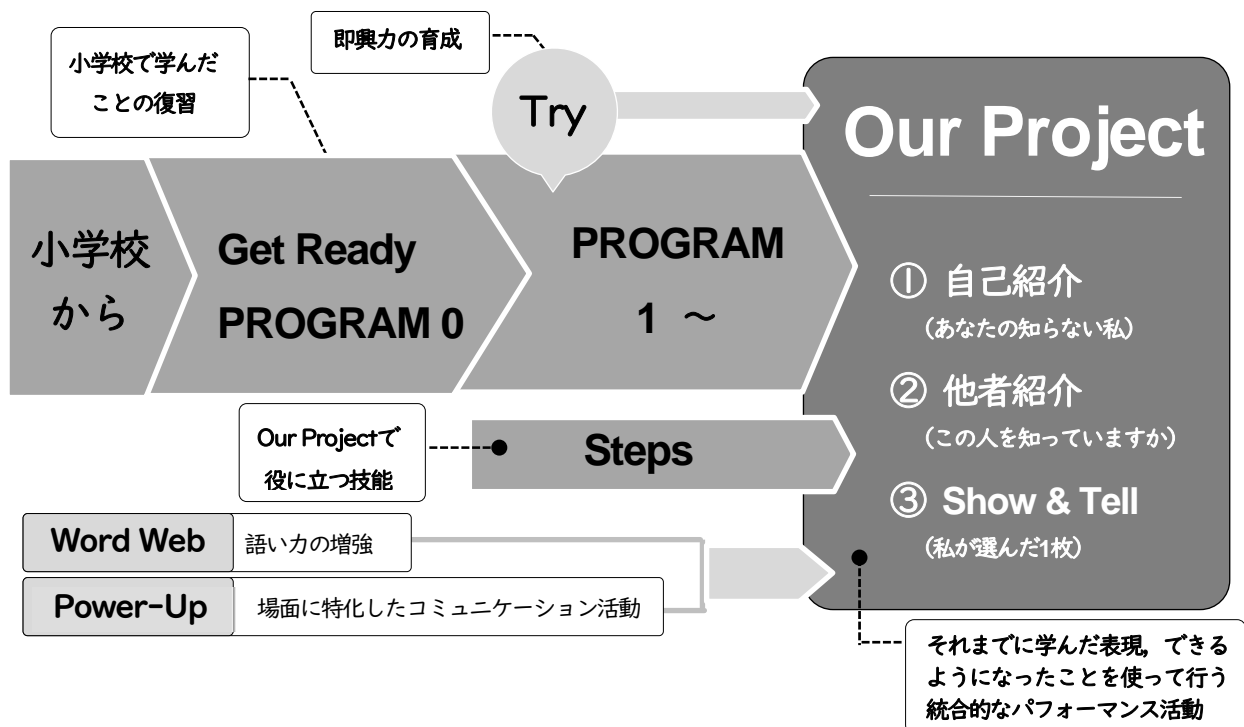
自ら**思考・判断・表現**することで、

**学びに向かう力**と

豊かな**人間性**を育てる教科書です。



**全体の構成** ▶ Our Projectを軸として、目標に向かって主体的に学習が進められる構成です。



## Our Project

4技能5領域を統合的に活用し、「コミュニケーションできる」喜びを実感できます。

習得した**知識・技能**を使って、自ら原稿を考え（**思考力**）、内容を取捨選択する判断をし（**判断力**）、自己表現（**表現力**）することで自信をつけます。

### モデルの理解・分析



「聞く」「読む」を通してモデルを理解・分析します。

### 構想を練る・メモの作成



「やりとり」「書く」を通して、構想を練ります。

### リハーサル・原稿の修正

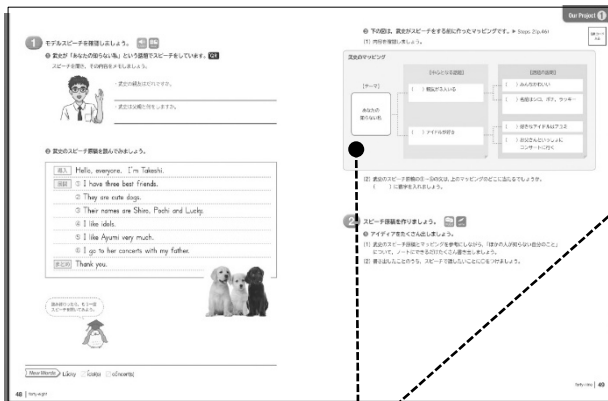


「読む」「発表」「書く」を通して、原稿を洗練します。

### 本番と振り返り



「発表」し、質問やコメントなど「やりとり」し、振り返ります。



(p.48- 51 Our Project 1)

マッピングなど、Our Projectで役に立つ技能は事前にStepsのコーナー（下記参照）で学習します。



1年生では、小学校英語で学んだことをとんどん使うことを推奨しながらも（fluency）、基本を大事にするために正確性（accuracy）を重視した構成としています。

## Go!

**聞き手をひきつける話し方**を促すとともに、友だちの発表を聞き、質問したりするなど、**Good Listenerのポイント**も記載しました。

最後には「**自分の発表や、友だちの発表から学んだことを振り返る活動**」を設け、真の**協働学習**ができるように配慮しました。

## Steps

コミュニケーションに役立つ知的生産の技術を会得します。

マッピング、スピーチの構成、つなぎことばなど、Our Projectに連動した内容を学習します。Our Projectの活動にスムーズに取り組める力をつけることができます。

### 1 エマがマッピングを使って好きなことについてスピーチをします。流れを確認しましょう。

#### ① 思いついたことばを書き出す

soccer J-pop music piano  
practice midfielder Nadeshiko Japan

みんなに書くとき、分類したり並び替えるのに便利だよ。

#### ② ことばを話題ごとに分類する

music J-pop / piano soccer midfielder / Nadeshiko Japan / practice

#### ③ 話したい話題を選んで話す順番に並べかえ。番号をふる

① soccer ② dribble ③ midfielder  
④ Nadeshiko Japan ⑤ watch on TV

マッピングに書いていないことも、追加して書いてみよう。

### ① 「アイデア出し」

### ② 「話題ごとに分類」

### ③ 「話したい順に並べかえ」

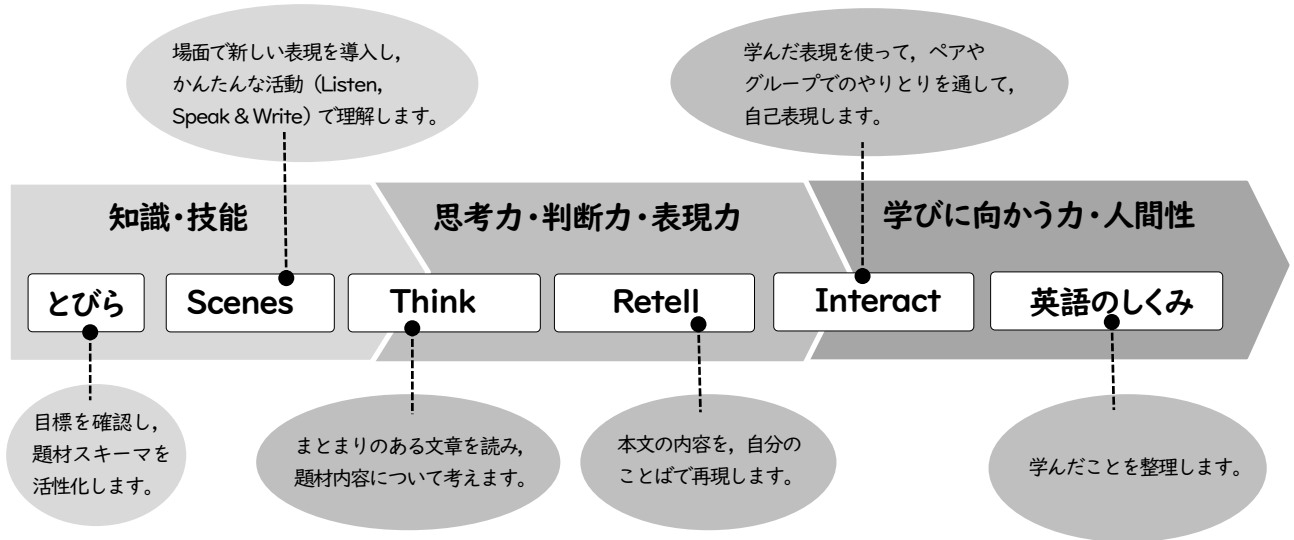
のスムーズステップで、アイデアのスピーチへの生かし方を丁寧に扱っています。



(p.46 Steps 2「考えを整理し、表現しよう」より)

# PROGRAM

新学習指導要領の3つの柱の可視化を図り、基礎学力を向上させます。



## 各コーナーの工夫

### とびら

新学習指導要領の3つの観点に沿ったGoalを設定しました。各Goalに対応するScenes, Think, Retell, Interactのページにチェック欄を設け、「何が身についたか」を自己評価できるようにしました。

- Scenes  Goal 1
- Think, Retell  Goal 2
- Interact  Goal 3

- ミラー先生の話聞きましよう。
- フィンランドはどんな国でしょうか。知っていることを言ってみましよう。

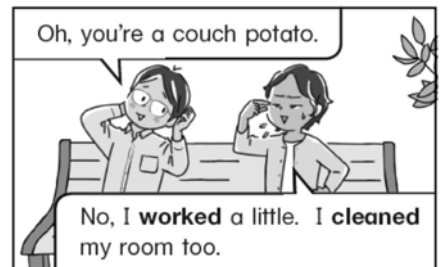
- Goal** ▶ Our Project ③
- 1 過去のことについて表現する。
  - 2 フィンランドの様子について話す。
  - 3 過去に「したこと」について、意欲的にやりとりする。

(p.103 PROGRAM 9)

### Scenes

新出表現の導入は、目標文を示し、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」を明確にしました。また、マンガ形式で示すことにより、どんな場面で使われる表現かが一目でわかるようにしました。

1 過去にしたことについて言えるようになる。



(p.104 PROGRAM 9)

### Think

Q&Aでは、本文の内容から推測して答える推量発問を適宜設けました(下記参照)。また、本文の最終セクションには、Share(右記参照)を設け、2種類のオープンクエスチョンを設けました。生徒に「多様なものの見方」を働かせることを促し、「深い学び」を支援します。

Q&A

- 1 Are the days short in winter?
- 2 Is Finland an interesting country?

Share

- 1 白夜の時期と極夜の時期、フィンランドの人々はどんな生活をしているのでしょうか。
- 2 あなたは、フィンランドの何に興味をもちましたか。

(左右ともp.108 PROGRAM 9)



## Retell

※ PROGRAM 9のみ

「自分で言える内容を選んで話す」活動に設定していますので、友だちの発表を聞いて、「こんなことも言うことができた」「こんなふうに表現すればよかったのか」という気づきを促し、自律的学習者を育てます。

- ① 本文を通してもう一度音読し、内容を確認しましょう。
- ② 語句や写真、絵を参考にして、英希になったつもりで本文の内容を日本語で言きましょう。
- ③ 相手を変えて、英希になったつもりで本文の内容を英語で伝えましょう。

例 1: I visited Finland with my family.

- visited
- watched
- relaxed
- invented



Finland



aurora



sauna

(p.109 PROGRAM 9)

## Interact

その言語材料を使う自然な場面を設定し、ペアやグループで即興的なやりとりができるように配慮しました。

また、「自分の意見は理由をつけて話す」ことを促し、主体的かつ対話的な学びができるように配慮しました。

### 2 スキットを作ろう

ショートスキットを作り、演じましょう。

Aさん：電話で友だちと話しています。友だちを遊びに誘いましょう。

Bさん：忙しくて出かけることができません。何をしているか説明して、誘いを断りましょう。

例 A: What are you doing now? Let's go fishing.

B: Sorry. I'm dancing with Otohime.

I can't go with you.

A: How about tomorrow?

B: Tomorrow is OK with me.



(p.100 PROGRAM 8)

## Get Ready

小学校で蓄積した知識・能力を定着させ、それを生かしてさらに伸ばします。



(p.7)

小学校での既習事項を確認するページを計13ページ（6時間分）確保しました。

小学校の時点で、英語に苦手意識をもってしまっている生徒にも「やり直せる」という安心感と「できた」という達成感を与えることができるように、やさしいアプローチから入れるようにするとともに、英語が得意な生徒が意欲的に取り組めるような活動も設けています。

文字を「書き写す」活動から入ります。

①-1 英語を聞いて、登場人物とその人の好きな食べ物とを線で結びましょう。QR

1	Emily	•	〇
2	Daniel	•	〇
3	Ms. Miller	•	〇

①-2 Word Boxの英語を参考にして、あなたが好きな食べ物を書きましょう。

I like \_\_\_\_\_

Word Box

spaghetti スパゲッティ		fried chicken フライドチキン		French fries フライドポテト	
salad サラダ		omelet オムレツ		beefsteak ビーフステーキ	

(p.10)

文字と音の関係について確認します。

### つづり字と発音

② 絵を参考にしながら、次の単語のつづり字に注意して読みましょう。

up	.....	cup		
ox	.....	fox	.....	box
in	.....	pin	.....	spin
at	.....	cat	.....	chat
ear	.....	hear	.....	clear

(p.18)

## 2. 対照表

※ Prog…PROGRAM OP…Our Project PU…Power-Up WW…Word Web

図書の構成・内容		おもな言語材料など	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
Get Ready	中学校英語をはじめよう	小学校英語の復習	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア (3)①ア, 3(1)(2)(3)	p.7-15	6
Prog. 0	アルファベットを確かめよう	アルファベットと発音の復習	2(1)ア・イ・ウ・エ (3)①ア, 3(1)(2)(3)	p.16-19	
	辞書を引いてみよう	辞書の使い方	3(2) オ	p.20	1
Prog. 1	友だちを作ろう	I'm (not) ~. You are ~. / Are you ~? Where ~?	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア (3)①ア・イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.21-27	5
Prog. 2	1-Bの生徒たち	I (don't) have ~./Do you ~? When do you ~?	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①ア・イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.29-35	5
	アクションコーナー	命令文, 否定命令文	2(1)ア・イ・ウ・エ (3)①エ ②イ	p.38	1
Prog. 3	タレントショーを開こう	can の文	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①ア・イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.39-45	5
Steps 1, 2	英語でやりとりしよう① 考えを整理し, 表現しよう	即興力の養成, 情報整理の仕方の学習	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①ウ・エ・オ ②イ, 3(1)(2)(3)	p.37, 46	各1
OP 1	あなたの知らない私	自己紹介	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)イ・ウ (3)①イ・ウ・エ・オ・カ ②ア・イ, 3(1)(2)(3)	p.47-51	4
Prog. 4	Let's Enjoy Japanese Culture.	Is that~? No, it isn't. This is ~. / Who is ~? She is ~.	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①ア・イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.53-59	5
Prog. 5	Junior Safety Patrol	She (doesn't) cook(s) ~./ Does he make ~? Yes, he does.	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.61-67	5
Prog. 6	The Way to School	him, her / Why do you ~? Because ~.	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①ア・イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.69-75	5
Prog. 7	Research on Australia	There is [are] ~./ How can we~?	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①ア・イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.79-85	5
Steps 3, 4	話の組み立て方を考えよう 英語でやりとりしよう②	即興力の養成, 情報整理の仕方の学習	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①イ・ウ・エ・オ ②イ, 3(1)(2)(3)	p.86, 87	各1
OP 2	この人を知っていますか	他者紹介	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)イ・ウ (3)①イ・ウ・エ・オ・カ ②ア・イ, 3(1)(2)(3)	p.89-93	4
Prog. 8	The Year-End Events	現在進行形	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.95-101	5
Prog. 9	A Trip to Finland	一般動詞の過去形 (規則・不規則型)	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①ア・イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.103-111	8
Prog. 10	Grandma Baba's Warming Ideas!	be 動詞の過去形, 過去進行形	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①ア・イ・ウ・エ・オ・カ, 3(1)(2)(3)	p.113-123	8
Steps 5~7	絵や写真を英語で表現しよう 文の内容を整理し, 表現しよう 英語でやりとりしよう③	即興力の養成, 情報整理の仕方の学習	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)ア・イ・ウ (3)①イ・ウ・エ・オ ②イ, 3(1)(2)(3)	p.102, 112, 124	各1
OP 3	私が選んだ1枚	Show & Tell	2(1)ア・イ・ウ・エ (2)イ・ウ (3)①イ・ウ・エ・オ・カ ②ア・イ, 3(1)(2)(3)	p.125-129	4
PU 1~6	ハンバーガーショップへ行く う/持ち主をたずねよう 他	食事や道案内などの特有の場面でのやりとりの学習	2(1)ア・イ・ウ・エ (3)①イ・ウ・エ・オ ②ア, 3(1)(2)(3)	p.52, 60, 76, 77, 94, 130	各1
WW 1~5	数/曜日と天気/順番・日付の言い方, 季節・月の名前 他	語いの強化	2(1)ア・イ・ウ・エ (3)①イ・エ, 3(1)(2)(3)	p.28, 36, 68, 78, 88	各1

計94 (時間)